

新学習指導要領にともなう道徳教育全体計画の手なしつと 「主題構想と話し合いの組織化」による授業実践例

足利市立第一中学校 南木 紀

1. はじめに
2. 道徳教育全体計画
3. 各学年重点目標
4. 道徳指導案“めざし”
5. 展開構想にそった意図的指名
6. 授業記録

1. はじめに

本校が昭和50・51年度文部省指定道徳教育協同推進校に指定され、教育計画を道徳教育の観点より見直し、道徳教育全体計画の改善を全職員の協力により行ってから、以来、はや2年、その間学習指導要領の改訂、職員の移動、学区変更等で道徳教育全体計画の改善に踏みきる時期に来た。はじめに道徳教育全体計画の手なしありとして、教育活動各領域と16項目の内容を検討、重点項目の選定を全職員共通理解、改善の過程重視という立場からその一覧表を作成した。これをふまえて、各学年の目標、内容項目の重点化をはかり、さらに今回は同和教育とのかかわりあいにも考慮して、同様な重点化をした。資料については、2カ年の研究とその後の継続研究により、より同質性の強い資料が選定でき「主題構想と話し合いの組織化」による授業がより前進可能となった。主題の構想にあたっては、1. 資料 2. 単位時間扱いを主とし、より話し合いが組織化しやすいようにしてある。しかるに授業実践例でも多時間扱いに留意したところを配慮して読み取っていただけたら幸いである。

教育経営の最適化を図るための教育計画、そしてその改善にともなう教育目標達成のための努力目標・努力点・具体策の年度評価が行われたと同時期(1月)に同じ方法で「道徳教育全体計画」の改善ができたのも、改善の過程を重視するという視点からすれば、より有意義な改善であった。そしてそれは生徒にとっては「生きてはたらく計画」になり、学習指導要領のいう「人間の生き方についての自覚を深め」る方向へ、さらに「人間とは何か」という生きる価値を見い出し、単に行動のみでなく常に自らの内側から道徳的行為をしていくことができるという意味の「道徳的実践力」が少しでも生徒の心の中につちかわれればと思う。

2 道徳教育全体計画 教育活動と内容項目観点別一覧（53年度検討改善）

項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
内 容		生命・心身・節度	生 活	強 い	自 主	寛 容	勤 劳	真 理・理 想	人 間	美 的・宗 教	友 愛	男 女	集 团	共 同	公 共	法 と	国 民 的
教育活動 各領域			習 慣	意 志	任 責	と 謙 虚	と 幸 福	と 理 想 追 求	間 愛	情 操	敬 愛	の 意 義	の 生 活	の 福 祉	と 秩 序	自 觉	
教育目標達成	開 眼	○		○	○	○	○	○			○		○	○	○	○	○
	克 己	○		○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○
	感 動	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
経営方針達成	職 員 の 和	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○
	師 弟 同 行	○		○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○
	施 設 設 備		○		○	○	○	○	○					○	○		
	職 員 の 研 修		○	○		○	○		○	○	○			○		○	
	地 域 社 会 連 携		○	○				○	○	○	○		○	○	○	○	○
スタッフ組織(委員会)	企 画			○	○	○		○	○	○						○	
	生 徒 指 導	○		○	○				○	○				○	○	○	
	教 科 指 導	○	○		○			○						○			
	同 和 教 育	○		○				○	○		○			○	○	○	
	特 殊 教 育		○			○								○			
	学 校 保 健	○	○	○		○						○		○			
教科指導導	国 語		○		○	○		○	○	○							○
	社 会	○	○					○			○			○	○	○	○
	数 学	○	○	○	○			○		○	○						
	理 科		○					○		○					○		
	音 楽	○	○		○			○	○	○	○					○	
	美 術	○	○							○						○	
	保 健 体 育	○	○	○	○				○		○	○		○	○		
	技 術 家 庭	○	○	○			○			○	○	○	○				
	英 語		○	○		○			○		○	○					○
特別活動	生徒会		○		○		○				○		○	○	○	○	
	生徒会				○				○				○	○	○	○	
	ク ラ ブ		○	○	○	○		○	○	○				○	○	○	
	儀 式 的 行 事	○	○	○						○		○		○		○	

特 別 活 動	学 校 行 事	学芸的行事		○	◎	○				○	○	○	○	○	○
		体育的行事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		旅行的行事	○	○			○			○	○	○	◎	◎	○
		保健・安全	◎	○							○				○
		勤労・生産		○	○	○		◎		○		○			
		学級指導	○	○	○	○	○	◎	○		◎	○	○	◎	○
		"(性教育)	○			○			○	○	○	○	○		○
領 域 外	部活動	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
	図書館教育		○				○	○	○	○			○		○
	給食指導	○	○		○		○		○				◎	○	
	放送教育		◎		○			○		○			○		○
	安全教育	◎	○					○							○
	情操教育					○	◎	○		○					
	教育相談				◎	◎			◎				○		
	環境美化		○	○			◎			○			○		
	生徒会各委員会		◎		○							○	○		○

3. 各学年の重点目標

(1) 第1学年

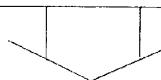
- ア 自主性への第1歩として、とくに基本的行動様式を身につけさせ、適正な判断力の育成と集団の和への認識を深めさせていく。
- イ ものごとに積極的に取り組み、全力をあげてやりぬこうとする強い意志を養わせていく。

(2) 第2学年

- ア 中堅学年としての自覚を持たせ、集団の秩序と規律を守る態度を身につけさせていく。
- イ 正義を愛し、社会の一員として自己反省できる態度を育てていく。

(3) 第3学年

- ア 最上級生としての自覚をもって、自ら積極的にことに当り、最後までやりぬく強い意志と責任感を育てていく。
- イ 思いやりの心を持って、お互いに助け合い協力しあいながら、自己実現へ努めさせていく。

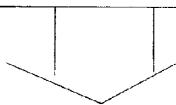


本校において、日常の教育活動における道徳教育の、補充・深化・統合を図るための授業は、どのような内容を重点的にとりあげて指導していったらよいか。

学年集団として、職員全体として、道徳教育全体計画と生徒の実態をふまえ、十分な検討を加えた上で、次の項目を重点的に指導していくことにする。



1. 自我の自覚期をまって、期待される道徳性としての、項目 4. 自主自律の精神・責任感と、項目 8. の思いやりの心を強く育てていこう。
2. よりよい社会の形成者となるための必要な気質である項目 1.1. 友人間の助け合いの心と、男女の健全な交際、項目 1.2. 健全な家庭づくりと集団の和、自己の役割というものを、より理解させてていこう。（特に、昭和 48 年・49 年度市教委指定による性教育の研究と指導をさらに発展させていこう。）



(1年)

- 自主自律
- 思いやりの心
- 友人間の助け合い
- 健全な家庭づくり



(2年)

- 責任感
- 思いやりの心
- 男女の清純な交際
- 集団の和と自己役割



(3年)

- 責任感
- 友人間の助け合い
- 集団の和と自己役割

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	生節 命度 心節 身制	生活 習慣	強い 意志	自主 と責 任	寛容 と謙 虚	勤勞 と幸 福	真理 理想	追 求	人 間 愛	美 宗教 的 的情 操	友 情	男女 の敬 愛	集 團 の意 義	共 同 生 活	公 共 の福 祉	法 と 秩 序
第 1 学 年	○	○	○	◎	○				◎		○	◎		○	○	○
第 2 学 年		○		◎	○				◎		○	◎	○			
第 3 学 年		◎	○	○		○	○		○				◎			
同 和 教 育	○		○				○	○	○		○		○	○		

4. 道徳指導案 3年

3年1組 指導者 南木 紀

1. 主題名 悪を退ける勇気
2. 資料名 めざし
3. 資料の読みとりとねらい

(1) 資料の読みとり

ア 筆者は乾物屋に入って店の人のくるのを待つうち、それとは知らず、あとから入ってきた見知らぬ女人（おばさん）が、だれもいないことを幸いに、めざしとソーセージをかごの中に入れ、ふろ敷でかくしてしまうところを目撃する。筆者はびっくりして口もきけぬ思いでいるが、女人と目を合わせたとき、急に憎しみがわく。出てきた店のおばさんに、「おばさん この人のかごのもの、お金払ってもらわなくちゃだめよ。この人は、かごの中にかくしているんだから………。」と言おうとしたのだが、その結果の恐ろしさを予測して言いだせない。そのように気持ちを動転させている筆者も、相手の女人人が、めざし2本買って出でいこうとすると、意外にも大きな声で、「あら、おばさん。もっとめざし買ったでしょう？」と指摘する。しかし、それがやっと、というところで、相手の女人人が、店のおばさんをこまかして立ち去るのを見すごしてしまう。そして、女人人が立ち去ったあとで、筆者は、女人人がどろぼうしたことを店のおばさんに告げるというのが、この資料の筋立てである。

イ 資料における筆者の、ものの考え方、感じ方、行動のしかたと、生徒の現にあるそれとを重ね合わせてみた場合、万引の現場を見ながら気持ちが動転してしまって、黙ってみていたこと、また悪に対する憎しみから、不正の事実を告げようと思いながら、それに伴っておこる結果の恐ろしさを考えて言いだせずにいること、などは両者に共通する同質性と、とらえることができるだろう。

(2) ねらいの限定

この主題は項目3のうちの前半の「勇気ある実行」からとらえて、それを指導する内容とする趣旨の主題である。そこでこの資料を用いて、さきの指導内容を指導するためには、ねらいを「いたずらにためらったり、迷ったりしないで、正しいと考えることは、勇気をもってこれを実行しようとする態度を養う。」とした。

4. 主題構想の要点

(1) 話し合いのしめくくり方

この資料を用いて上記のねらいを達成するために、筆者の意識と行動に焦点を合わせた話し合いの落ちつけさきは、不正を告げることができなかった筆者の態度を正す点にあろう。すなわち、筆者は気持ちの上では、悪を悪としてこれを避けようと懸命だったにもかかわらず、結果として、それを実行に移せなかつたという事実から、その筆者に望まれるものは、現実の問題にぶつかってみれば、むつかしいことではあるが、正しいと考えたことは、ためらうことなく勇気をもって実行しようとする態度であろう。

(2) 初発の感想

この資料を生徒に与えた場合、どのような感想をいただくであろうか。

- まず、筆者は万引きをしたことを店のおばさんに告げようと思っていたんだから、これを見すごしてしまわないで勇気をだして言うべきだった、とする感想が出るだろう。
- また、そうはいっても、こんなときになってみれば、なかなか切り出すことはむづかしいものだ。筆者のいうことのできなかった気持ちは同情できる、とする者も出てくるだろう。
- 万引きをした女の人に「たったそれだけのことばで、この人の罪は消えるのに」と考えていることや「おばさん、もっとめざし買ったでしょう」ということばから、筆者の人柄を問えば、罪を憎みながらも罪を犯させたくない、またできれば万引きした人と思いたくないという筆者の純粋な正義感と善意に着目するだろう。

(3) 共通問題意識の設定

「不正を排除しようとする気持ちを持ちながら、これを見すごしてしまったことは、どこに問題があるのか考えてみよう。」

(4) 展開の前段

話し合いを筆者批判でしめくくるのであるから、展開前段では、筆者が不正の事実を告げようと思いながらも、気持ちが動転していることや、言ったあとの破乱を恐れる気持ちから、ためらい迷っていることは無理からぬことだと弁護する方向で展開する。

(5) 展開の後段

前段で「あら、おばさん、もっとめざし買ったでしょう。」とまでは言えたが、ごまかそうとする女の人に、だめ押しのひと言がいえなかつた筆者の態度は正す必要があろう。とすれば、不正を見すごすまいとする強い意志や、それを行動にあらわす勇気に欠けていたと言えるだろう。この話し合いを通して(1)に結びつけて話し合いをしめくくりたい。

(6) 配慮事項

この資料の主人公の考え方や行動についての感想を事前にまとめさせておく。

5. 展開の大要

教 師 の 発 問	期 待 す る 生 徒 の 反 応	指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none">○ 筆者の考え方や感じ方、または行動のしかたについてどんなことを感じたか。	<ul style="list-style-type: none">○ 筆者は万引きをしたことを店のおばさんに告げようと思っていたんだから、これを見すごしてしまわないで勇気を出して言うべきだ。○ こんなときになってみると、なかなかきりだすことはむづかしいものだ。筆者の言うことのできなかつたことに同情する。	<ul style="list-style-type: none">○ 筆者に対する批判論が多数をしめるだろう。

- 万引きをした女の人に「たったそれだけのことばで罪は消えるのに」と考へてことや、「おばさんもっとめざし買ったでしょう」ということばからみて、筆者はどんな人だと言えるか。

筆者が不正を排除しようとする気持ちをもちながら、これを見すごしてしまったことは、どこに問題があるのか。

- 筆者が、おばさん、この人のかごのもののお金払ってもらわなくちゃだめだよ。この人はかごの中にかくしているんだから………。と言おうとしたのはどんな気持ちからか。

- それだけの気持ちがあつて、知らせることができないのはなぜなのか。

- 言わなくてはいけないことはわかるんだが、悪いことを知らない人ほどびっくりして言えなくなるんではないか、またうす暗いシンとした店の中で、しかも女だけだから恐ろしくなるのは当然だと思うが、どうか。

- なかなか言い出せないも

- 万引きした女の人の罪を憎みながらも罪を犯させない、できれば万引きをした人と思いたくないという心のきれいな持ち主だと思う。

- 万引きした女の人の目と筆者の目が合って、その人への憎しみがわいたため。

- 言おうとしていたんだから勇気を出して言うべきだ。

- 緊張のあまり声が出なかったのではないか、知らせようと思っても、何か自分の身に恐ろしいことが起こりそうでこわくなったから。

- このような状態だけに何か恐ろしいことが起こったらと考れば、言いだせなくなる気持ちもわかる。

- 筆者は純心な人だけに、こんな場合驚きと恐ろしさで言いだせなくなるのは、しかたがないだろう。

- 万引きという不正に対する憎し

- 感想では同質だけとらわれやすいので少女の純心な正義感に着目させておく。

- 生徒の発言の中から生かす。

- 筆者は万引きを悪として憎み、また万引きした女人に対して善意でこれを正そうとしている点に着目させる。

- 弁護への手こ入れを強化する。

- 批判論をつきくずすつもりで発問する。

- よくぞ言えたこ

<p>のとするなら、筆者が女の人の出ていこうとするのを見て、「あらおばさん、もっとめざし買ったでしょう？」と言えたのは、どうしてなのだろうか。</p>	<p>みと怒りがおさえきれず爆発したい」のだろう。</p>	<p>と、これが後半の筆者否定への足がかりとなる。</p>
<p>○ ここまで言えたのだから、「もっと、かごの中にあるでしょう」とか「おばさん、もっとかごの中にありますよ」と、どうしてそのもうひと言が言いだせなかつたのだろうか。</p>	<p>○ 店のおばさんに話さなければという筆者の心の中の戦いが、このことばになってあらわれたのではないか。</p>	<p>○ やはり結果的には、悪を見すごしてしまったことを考えれば筆者の態度は否定されなければならないものだろう。</p>
<p>○ このできごとを通して筆者に望みたい態度は何か。</p>	<p>○ やはり筆者にはどんなことがあっても、万引きを見のがしてはならないと強く自分に言いきかせる気持ちと、それを行動にあらわす勇気に欠けていたからだと思う。</p>	<p>○ ここまで言ったのが、精一杯だったのではないか。しかし、せっかく大きな声で注意できたのだから、もうひと言、勇気をもって言って、女の人に罪を犯させないようにしてほしかった。</p>
	<p>○ むずかしいとは思うが、正しいと考えることは、ためらうことなく、勇気をもって行動に移ってほしいことである。</p>	

6. 話し合いがより組織化するための留意事項

- (1) 初発の感想では、10～15人程度にする。
- (2) 共通問題意識の設定と第1発問については、生徒の感想の中から引き出すようにする。
- (3) 強力批判はできるだけ、あとまわしにする。
- (4) 前段での教師から弁護側への手入れをしっかりやる。

5. 展開構想（流れ）にそった意図的指名

	<p>○ 弁護派</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小林 はっきり言えない。もし まちがっていたら申しわけ ない。しかえしも。 ○ 斎藤 私は同じ経験をした。何 も言えなかった。弁護する。 ○ 上岡 主人公と私の性格はよく にている。盗みをする人は、 白状しない。 ○ 真島 はっきり注意している。と ても僕には言えない。 ○ 高田 少しでも言えたことは、 いいことだ。 	<p>● 中間派</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 相場 経験ないし、その場 にならんとわからな ● 柳田 いが、びっくりして 声が出ないと思う。
初		
発		<p>● 新井 あまりかかわらない 方がいい、あとでう らまれる。</p> <p>● 酒巻 実さいは、こわいと 思う。私は見て、みぬ ふりをしてしまう。</p>
の	<p>● 批判派</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 加藤 その場での注意が本当の 思いやりだ。後で言うのは かけ口だ。 ● 定方 後で言うのはつけ口だ。 勇気はいるが一言でお互い すっきりする。 ● 金井 もたもたしそぎる。きち んと言うべきだ。 ● 平賀 帰ってから言うのはよく ない。 ● 松崎 おそろしいことがおこる 気がしたというが、万引き というおそろしいことが現 実におきている。 ● 益田 にくしみがわいてきたな ら、はっきり万引きしたこ とを言えばよい。 ● 長谷川 はっきり言うべきだ。 	<p>● 兵藤 主人公より、万引き した人の方を批判する。</p> <p>● 高田 店のおばさんのとっ た態度がえらい。</p>
感		
想		<p>● 原田 万引きをさせない方 めったはずだ。</p> <p>● 為谷 大大声を出せば。</p> <p>● 堀越 店のおばさんに上手 に知らせる。</p>

第一発問

- 高田
- 斎藤
- 小林
- 真島

この生徒の感想の中から、第一発問の「万引きを言おうとした気持ち」を引き出し、再指名により、指導案の字づらの発問をしないようにする。

第二発問

- (ア) 驚きのため言えない
- (イ) もしまちがっていたら大変だ。
- (ウ) 勇気がない。

- 相場 源田
- 柳田 斎藤
- 小林 新井 酒巻
- 加藤 定方 平賀 松崎

第三発問

- (ア) びっくりして言えないし、店も暗いし、おそろしい。
- (イ) 言うべきだ。

- 相場 柳田
- 上岡 小林 酒巻
- 松崎 長谷川 平田

第四発問

- 主人公否定への足がかりの発問なので、批判側への発問とする。

- 定方 加藤 松崎
- 益田 長谷川 平田
- 上岡 小林

6. 授業記録

- T1 さて今日は……資料名は何といったかな。
S1 めざし(全員)
T2 そう「めざし」ですね。これ、ほっぺたに射すと何とよぶ?
S2 ホオざし
T3 どっちがおいしいかな、……同じだね。

- T4 主人公の名前は何といったっけ。
- S3 わたし(全員)
- T5 このわたしは大人?オバさんですか?
- S4 少女です(全員)
- T6 で……まだ登場人物はいるでしょう。
- S5 成のおばさん(全員)
- T7 そう、店のおばさんね……。そのほかは。
- S6 女(全員)
- T8 女ね。万引きしたんだね。こちらは大人の人だね。この万引きを主人公の少女は見たのかい。聞いたのかい。
- S7 見た(全員)
- T9 万引きを目撃したとき、主人公はすぐ注意ができたのかい。
- S8 言えなかつた(全員)
- T10 店のおばさんに対して、あとの方になってから言ったわけだね。「あの人、どうぼうよ」と……。それでこのおばさんは万引きした人をつかまえたの?
- S9 つかまえなかつた(全員)
- T11 あとのはつりだったね。だいたいこれが「めざし」のストーリーだったね。これをもとにして、学習オリエンテーションのこともふまえて、道徳の授業を進めたいと思います。それでは、この資料を読んでの感想を発表してもらいます。
- T12 はい。それでは誰からでもいいです。どうぞ小林さん。
- S10 私も、この主人公と同じような状態になってしまったと思います。万引きすることは悪いことだと思いますが、やはりそのような現場をみても、声を出すことはできなかったと思います。もし、その人が万引きをしていなかつたら、その人を傷つけてしまうし、それに、その人に後で逢つたら、しかえしをされるかもしれない。だけどこの女の場合は言った方がよかつたのかもしれない。
- T13 小林さんは、弁護の方ですね…… はい上岡さん
- S11 私も上岡さんと同じように、私が主人公の立場で、万引を見たとしても、その場で言おうと思っても言えないし、やはり後になってから後悔というか言えばよかったです。それから万引をみても悪く言えば、見てみぬふりをしてしまうことがあるのではないかと思います。
- T14 では、ほかに。 はい酒巻さん。
- S12 私も弁護の方です。その理由は、はじめ女の人が万引をしているときに、主人公が何も言わなかつたのは悪いと思うのですが、最後になって言ったことは、とても勇気があつてよいと思いました。そして私が、もし主人公の立場だとしたら、主人公と同じように、言おうとしても足が震えて言えなかつたと思う。そして女の人が万引したところを見たら、やっぱり言えなくなってしまう。
- T15 さて上岡さんと酒巻さんの声がうしろの方まで聞こえ………(全員…マス)

- はい、だいじょうぶですね。では次に真島君の意見は。
- S13 私も弁護なんんですけど、主人公の私という人は、まだ少女で、この万引をした人は大人で25—6才すぎの売れ残り（笑い）かと思います。このような大人に少女が注意することができないと思うので、まあ、主人公にしてみれば最後の方になって言えたことは、たいしたものだと思います。
- T16 では、これらの弁護に対して、反対の感想を書いてた人が、かなりいるわけだけど、その人たち……はい加藤ちゃん。君のはなかなか痛烈だったね。
- S14 まず、不正行為をみたら、その場で注意してやることが、勇気はいるだろうけれど、それが本当の思いやりだと思うし、それに、その場で言えずとも、本人がいなくなってしまってから、その罪をあばくようなことは、それよりもっと悪いことだと思います。
- T17 ……つまり「かげ口」になるというんだね。それから
- S15 そうです。それから主人公はだいぶ無責任に思うのですけど、主人公のひとことが、本人を罪人にするとか、本人の気持ちを傷つけるので、もっとそういう点を気をつけて、言動に注意すべきであった。
- T18 高田さん、どうぞ。
- S16 その場で注意するというのですけど、やはり相手が大人なので、言いにくい。それでこの主人公の場合は、最後にはっきり言ったのだから、そのてんでは、すごく偉いと思うので、その場でズバリ言うのはむずかしい。加藤君でも言えなかっただと思います。
- T19 今の高田さんの意見に対してどうですか……はい定方さん。
- S17 私はどちらかといえば、批判です。その理由は、その場で言うのはむずかしいことで、しかも相手が大人というので、言えないことかも知れないけれど、もし主人公が女の人に、お金を払うように言ってたら、この女の人はもしかしたら万引をしなかったろうし、お互いにいやな気持ちにならなかったし、女の人が、行ってしまったら店の人に言うのは、つげ口と同じようなことだと思うので、やはりもっと早く言ってあげればよかったと思います。
- T20 ハイ、上岡さん。
- S18 加藤君も定方さんも店の人に言ったことを“つげ口”といったのですけど、この主人公の場合は、私に似てるのによくわかるのですけど、こういうことはよくあることで、言おう言おうと思っても言えなかっただために、女の人が行ってしまってから店のおばさんに言ったということで、これがつげ口だと、陰ぐちだとかではないと思います。
- T21 この意見に対してどう？……ハイ、勅使河原さん。
- S19 言わないより、言った方がましだし、だからかげ口だと、ということはないと思います。迷わないで言った方がいい。その方が店の人のためにもなるし、自分のためにも、なによりも万引をした女の人のためにもなったのだから、やっぱり言った方がよかったです。それに言えないまでも、そっと店の人に教えてやる方法もあったと思う。
- T22 教えてやる方法があったと言うんだね……ここで金井さんの感想を聞こう。
- S20 そういうふうに言えなかっただとしても、結局は盗まれてしまったのだから、いけないと思

う。盗まれるということは、お店のおばさんにとってもいやなことだし、自分もはっきり言えなかつたことから、いやな感じになるから、やっぱり言わなかつたのは、いけない。

T23 盗まれた事実と、言えなかつたことを考え合わせると、言えなかつたのは悪いといふんだね。じゃあ、松崎君どうです。

S21 僕、批判です。女人人が万引をしているときに、やっぱり言えばよかったです、そのとき言えば女人が万引をやめたかも知れません。店のおばさんが出てきたとき、すぐ言えばよかったです。

T24 えーと、平田君と長谷川さん……はい長谷川さん。

S22 私もどちらかと言えば批判で、主人公は少し正義感に欠けていたと思います。とっさのときだったから、私も何も言えないでいるかもしれないけれど、やっぱり言ってあげることがその人に対しての思いやりだと思うし、主人公がはっきり言ってあげないために、その女人人は、また同じことを、くり返すと思います。悪く言えば、この主人公がまた、罪を犯させたことになるのではないかと思います。

T25 なるほど、主人公がいけない……きびしい内容だね……どうです酒巻さん。

S23 だけども、とっさの場合は、やっぱり言えなくなってしまう。

T26 はい、平田君

S24 僕は批判です。ボクなら相手が恐い男の人だったら言えないかもしれないが、相手が女人なのだから、はっきりと“よく万引なんかできる”とその場で言えたと思うし、そういうふうに言った方が女人のためにもなるし、やっぱり言った方がよかったです。

T27 こういう批判の意見に対して、どうです弁護の人たち;……ハイ、真島君。

S25 えーと、僕は絶対弁護の方で、万引についてこの文章を考えてみると、この女は箱の中に入めざしを入れたのですけれど、万引という行為は店を出ていったときで成立するわけで、これはまだ万引とは正確に言えないと思う。それは、この場合、主人公がすぐ注意しても、女人人がとぼけてしまえばそれまでだし、またこれについて、やめるんじゃないかという意見もあるのですが、こんな万引をするような女は注意してもやめないと思う。だから僕は絶対弁護です。

T28 なるほどね。えーと加藤君、真島君があのよう絶対弁護だと言ってるが……どう？

S26 店で自分のポケットに品物を入れてしまえば、店を出なくとも万引をしていることになるので、この場合は万引だと思う。もし出てゆくとき、はっきり店の人に万引だと言ってやつたら、やつた人は、かなり恥をかくし、万引をするような人でも反省すると思う。だから言ってやるべきです。

T29 ハイ…真島君。

S27 もともと、万引をするような人はどうかしているのだから、うんと恥をかかせればいいと思う。さっき万引の素振りが出たけれど、これは今の社会で言えば、とぼけてしまえばそれまでだし、それに確かな証拠がなければしょうがないので、たとえば“あなた万引しましたね”と言っても、“これお金払いますよ”と言われれば、それまでだから。

- T30 あとひとつ、この店の雰囲気だけど、暗して、二人っきりで店のおばさんも出てくるのがおそい。これだけの条件で…。どうかね。金井さんどう？さっきは強い批判だったね。
- S28 ハイ、やっぱりそういうときも、現にこの人は万引したんだから、店の人があてきたときにきちんと言えばよかったと思います。
- T31 ここで、斎藤さんの意見聞こう。彼女のはひと味ちがうよ。
- S29 あの、私は弁護です。それは私が小さいときに、お店で万引したのを目撃した経験があるのです。主人公の立場で考えるなら、言おうと思っても恐くて言えないし、足もふるえてしまう。それから、万引をするようになるまでには、生活が苦しくてやってしまったのだととも考えられるし、あんまり強くは言えないのではないかと思います。
- T32 ハイ、相場さん。
- S30 私の場合は批判なんですけど、主人公が万引したのを目撃して、すぐに言うのは、言いづらいのはよくわかるのですけど、店を出ていってしまった女人を追いかけていっても万引をすることは、いけないことだと言ってやるべきだった。
- T33 新井さん、どうです。
- S31 私の考えは、今までの人たちとは、かなりちがっているのですけど、万引することは、ほんとうにいけないことだと思いますけど、しかし私は言わない方がよかったと思います。それは店の中で人のけはいを察したとき、悪いことをしたと反省するようすを見せませんでした。悪いことに対して反省する心がない人に、何を言ってもそれは逆効果になると思います。たしかに万引することはいけないのですが、それをつげ口してしまった主人公の態度も適切だったとは思いませんでした。
- T34 ……というわけです。はい、小林さん。
- S32 平田君が、恐い男の人だったら言えないかもしれないと言ったんですが、平田君は男だから言えるのだと思いますし、私なんか女にとっては相手が大人だから言えないと思います。
- T35 なるほどね……女でものね（笑い）
言おう言おうとしても、なかなか言えないという、このこと。この主人公も自分の心の中で言おう言おうとしているのは、この文中によく出ていると思う。はじめから無関心で、ソッポを向いている主人公じゃあないと思います。それに最後になって、『おばさん、めざし買ったでしょう』と一本クギをさしてるね。このことから、この主人公はどんなタイプの少女だろうね。
- S33 気は強くないと思います。
- T36 相場さんは
- S34 この主人公は、あとから言うなんて、いくらか気持ちをはぐらかしている。
- T37 上岡さんは、どうですか。
- S35 私はちょうど相場さんとは反対で、この主人公は、あとから言ったというんですけど、これは、はじめから言おうとしたのだけれど、どうしても言えなくて最後にやっと、この主人公にとって『ひとこと』が精一杯だったのだと思います。気が小さくておとなしいタイプ

の女の子だと思います。

共通問題意識の設定

- T38 では、今の上岡さんの言うように、どちらかというと気の小さい少女と思われるね。このほか、やさしいところもある。いっしょにけんめい何かしようとしている気持ちも出ているそうですね、上岡さん、小林さん？（ハイ）……。そういう気持ちがあるにもかかわらず、万引されてしまい店のものを持っていかれてしまったね。途中でひとことがあったにせよ。そのへんにもっとつっ込んだ話しあいがあるかもしれないね。それをこれからみんなで考えてみよう。弁護の人たちもいいね。
- T39 自分が言おう言おうとした心の中に、次のようなものが文中にあったね。店のおばさんに“カゴの中のもののお金を払ってもらわなければだめだ”と“カゴの中に隠してあるんだから……。”と、言おうとしたことは事実だね。つまり、そういう善意の気持ちがあるにもかかわらず、はっきりと言えなかったのは、どうしてだろうか。さっきから、加藤君たちの発言内容はこれだったね。そういう原因はどこにあるのか、もう一度、考えてみよう……。ハイ、斎藤さん。
- S36 かけ口とか、つげ口と言った人がいたんですけど、それは、この主人公が気が弱くて言おうとしたんですけど、勇気がなくてどうしても言えなかつたのだと思います。
- T40 では、定方さんどうぞ。
- S37 相手が大人だったから言わなかつたというのは、よほど気が強くないと言えないことだと私は思うのですが、やっぱり、正しいという目から見れば、言えばよかったと思います。
- T41 ハイ、真島君。
- S38 えーと、みなさんの言っている、かけ口、つげ口なんですけど、まず“何をしたんですか、うしろでおばさんの声”とあるように、このおばさんは何をされたのか全くわからないのでこの少女はそれについて説明したのだから、かけ口では絶対ありません。それに言わなるのは悪かったとも言ってるんですけど、さっきも言ったとおり、とぼけられればそれまでだし、もうひとつ、あとでそっと言ってやるという意見もありましたが、この女の人は、すごくふざけた人で、”めざしを人指し指でクルッと廻す”など、人をばかにする態度をとっているので、これじゃあ後で言てもしょうがない。この少女にしてみればこの場は思いやりがあった方です。またこのことは、さっき相場さんが言ったように、ほんとうに意地悪だったら、万引する人をつかまえるつもりで身がまえたと思う。主人公はそうでなく、善意で言おう言おうと思っていた。すごく思いやりがあり、相手のことをよく考えている。
- T42 言おう、言おうとしているだけでもすばらしい思いやりではないかというんだね。ましてうす暗い店だし、二人だけだし……。どう平田君、こういう条件で。
- S39 もし、自分がお金おとしても、それを他人がひろったのを見て、それでも言えなかつたということはないと思う。それを考えてみれば、言うのが当然だと思う。
- T43 どう上岡さん。

- S40 ハイ、言えないと思います。
- T44 どうして言えないの。
- S41 これをよく読むと、この主人公が、言おう言おうとしていることが、よく出ていると思います。さっき平田君が自分のお金をおとして、それをひろわれても言えないわけがないと言ったのですけど、真島君が言ったように、この場合も、ひろった他人が、"私が落したのよ"としらばっくれれば、どうしようもないで、やっぱり言えないのじゃないですか。
- T45 ハイ、まつてました岩崎君。
- S42 さっきから、みんなが言ってたこととはちがうのですけど、この少女が言えなかつたといふのは、幼いからじゃなくて、この文中に、万引した女の人の服装がうすよごれた感じで書かれているので、主人公は、この万引女が貧乏だと思ったから、善意で言えなかつたと思います。
- T46 善意ですね。ハイ、真島君。
- S43 今の岩崎君の意見ですけど、もし貧乏だったらボクはこんな所でしかも万引はしないと思います。かりに貧乏で万引するのなら、こんなふざけた態度はとらないと思う。ほんとうに貧乏だったら、あやまると思う。
- T47 貧乏とはいっても、それなりの良さはある。心まで貧しい人はいない、と言いたいんだね。
- S44 ハイ、そうです。この女の人はふざけた態度をとっているので貧乏じゃないと思います。それから、この少女は善意で言えなかつたのじゃあないと思いました。
- T48 ハイ、岩崎君。
- S45 真島君のふざけた態度ですけど、めざしを裏がえしにしただけで、べつに問題にするほどのものではないと思います。
- T49 たくさん出ましたね。なかなか言いにくいと思う。……、さて言いにくい言いにくいといつても、"おばさんもっとめざし買ったでしょう"とひとこと言ってるよね。そしてなかなか言えない条件の中で言えたというのは、この主人公の気持ちが、そのときどうだったのだろうね。
- S46 店のおばさんと主人公の目が合って、主人公が万引したことを言おうとしても、なかなか言えないでいる心の中を、この女の人は見つかっていた。それを主人公も察していたと思う、それでもごまかして店を出てゆこうとしたとき、女の人が主人公の顔をチラッと見たとき、思わずフッと口から出たのだと思う。
- T50 新井さんどう、さっきはできるだけそっとしておいた方がいいと言ってたが、主人公はひとことといったね、これをどう思う。
- S47
- T51 では真島君。
- S48 言ったというのは、この少女にとては思いがけないことだと思います。でも、これは善意で言ったのではない。……この女はふざけた女です。ボクでもこんな態度で店を出てゆかれては、やっぱり言うと思います。

- T52 えーと、小林さんどうです。
- S49 ひとこと言ったのだから、この少女はもう、これからは悪いことはしないと思います。
- T53 じゃあ聞くけど、上岡さん、ひとこと言ったのはわかるけど、それでもなお女の人は、言われてもごまかしてしまったわけだから、最後のひとことを言っても、ちっともこたえないわけで、平気な顔をしておばさんに、だまって出ていってしまった、ということは、それ以上突っこんで言えなかつたんじゃないかと思います。
- T54 加藤君どうです。
- S51 何とか店のおばさんに、うまく伝えたかったんでしょうけど、最後に店を出てゆかれてしまうので、とっさに出たことばだと思います。
- T55 定方さんは。
- S52 言おうと思って言ったことばじゃないのだから、自分でもおどろいてしまったんだから次のことばが出なかつたのはしかたがない。
- T56 ほんとうにそう思う？
- S53 いいのかと言われれば、やっぱりよくないけれど。
- T57 加藤君これでいいかい、さっきの強い批判はぐらついたのかい。
- S54 いえ、そうじゃなくて、この少女の気持ちは、他の人より弱い。カッとなって言ったのは本心ではないのだから、立場を考えて行動すべきだった。
- T58 なるほど、金井さん。
- S55 万引するのが絶対わかっているのだから、はっきり言えなかつたというのは、いけないと思う。途中で、ひとことが言えたのだから、なおさらである。
- T59 ダメを押すのが常識である……と言いたいわけだね。ではここで勅使河原さんの書いた感想を発表してもらいましょう。
- S56 たとえば都会などで、恐い男の人、たとえばヤクザなどに、からまれてる女人人がいるとき、まわりの人たちは、とめようともしないでいることがあるのですが、やっぱりそれはいけないことなので、勇気をもって注告してやれるようになりたいと思います。
- T60 ここですね、みんなが先日討議してきめた“いやなあだ名は言わない”“こばかにした笑いはやめよう”など、また身体に欠かんがある人をみんなでいじめているとき、それをみていた廻りの人たちの態度、授業中まちがった発言をすると、特定の人だけを集中攻撃するね。そういうとき“ひとこと”ダメ押しがあれば、攻撃した連中も内心わかってやってることだし、ずいぶんクラスの雰囲気も良くなってくると思う。そういう勇気が必要だと思う。
場合によっては、すごくむずかしくて、“ひとこと”が、言い出せないこともあるが、せめてこのクラスの中ぐらいは「悪」が芽生えたらすぐに注意してやることにしよう。また、みんなが大きくなつて世の中に出たとき、勇気をもって行動してもらいたい。先日のテレビで「招かれざる客」を見てもらったが、あの人種差別の問題も、真剣に考え、それを自分のものにしてゆくことが、これから世の中では重要だと思います。
- 以上で終ります。

評

本校は、昭和50・51年度文部省指定協同推進校として、西小学校・富田小学校・富田中学校とともに、地域の小・中学校の協力もあって、地域全体の計画のためにも多大の貢献をしてまいりました。指定終了後も、公開授業を行い、研究と実践を深めてこられ、点から面に更に拡大されたことに対し感謝申し上げます。この論文の「道徳教育全体計画」の「教育活動と内容項目観点別一覧」については、新学習指導要領に基づいて、全職員の協力により作成されたわけですが、全体計画は作成の過程を大切にすることによって、これが道徳的実践へつながっていきます。16の内容項目と教育活動の各領域との関連もよく図られております。各学年の重点目標も二つに絞られていますが、重点化を図ることによって指導の徹底と他の関連価値への一般化も可能になります。

「主題構想と話し合いの組織化」による授業実践例については、ねらいや生徒の実態に即して資料の分析がよくなされており、発問にも工夫のあとがみられます。生徒の発言の中には、考え方や感じ方の深さもうかがわれます。「話し合いの組織化」も定着から、発展の段階に進んできただようです。本稿の内容について、各学校で参考にしていただきたいと思います。